

## 文芸OGネットワーク通信

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1 共立女子大学文芸メディア研究室内 文芸OGネットワーク  
Tel & Fax 03-3237-2681 URL [www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei](http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei)  
代表 多田 久恵 発行：2018.3.24

vol. 28



## 共立祭参加

今年も文芸OGネットワークは  
共立祭に参加した。



共立祭は10月14日(土)と15日(日)の2日間にわたって行われた。大学・短大では、個性を大切にしてほしいという願いを込めて“Let's Enjoy Colorful Halloween Party!”というテーマで開催された。両日ともあいにくの雨模様だったが、ハロウィーンの飾りつけに目を惹かれ、学園祭の賑わいや華やかさが感じられた。中学・高校の学園祭も同日開催だったため、学校訪問や進学相談会に参加した親子連れの姿も多く見受けられた。



OG ネットは、一昨年完成した2号館の5階で展示とバザーを行った。展示は〈「文学座」展～創立80周年を迎えて～〉と題して、2教室に分かれて行われた。この展示は文芸学部劇芸術研究室が所蔵する演劇資料の中から文学座に関する資料を選びすぐって展示したもので、戦後間もない頃の公演ポスターから現在の公演まで、文学座の変遷がわかる配置だった。2教室のうち1部屋には俳優北見治一氏の写真帖を中心に文学座の本公演とアトリエ公演のポスター、プログラムが展示されていた。もう一つの部屋にはバザーと茶菓コーナーの他、卒業生で劇作家の川崎照代さんとその作品が紹介されていた。展示パネル「川崎照代と文学座」の一部を以下にご紹介したい。

川崎さんは鹿児島県枕崎市のご出身で、1969年に劇芸術コースを卒業、大学院で演劇学を専攻し、在学中から戯曲を書き始めた。1976年

に『川崎照代戯曲集』を上梓し、『塩祝申そう』が1978年度の文化庁創作奨励特別賞(第1回)を受賞し、文化座により初演された。1993年には『塩祝申そう』『鯉群』『港の風』三部作が劇団ぐるーぷえいとにより一挙上演され、その年の演劇界の話

題をさらったという。文学座に書き下ろしたのは『野分立つ』(1995年)、『初雷』(2007年)、『春疾風』(2016年)で、中でも『野分立つ』は文学座創立60周年、65周年の節目や、地方公演などで再演を重ねている。



## 劇芸術資料室から 北見治一氏の写真帖と文学座

劇芸術研究室所蔵の演劇資料をお借りして共立祭に参加するのは8回目である。以前から公表したいと考えていた資料が、俳優北見治一氏が共立女子大学に遺贈した写真帖とスクラップブックである。創立80周年に合わせた「文学座展」に、この写真帖と、卒業生の劇作家川崎照代氏を紹介できたことは嬉しい。



『回想の文学座』（1988年出版、エッセイスト・クラブ賞受賞）の著者北見治一氏（1920—1996）は1949年文学座に入団、1963年退団するまで多くの作品に出演した。その写真帖には自身が出演した公演に関するスナップ写真が細かいコメントをつけられて取められている。3人の創立者（岩田豊雄、久保田万太郎、岸田國士）の笑顔の数々、三島由紀夫のくつろいだ表情、芥川比呂志の凛々しいハムレット姿、福田恒存の演出、加藤治子や岸田今日子の稽古場風景、などなど。文学座は1963年に二度にわたる脱退騒ぎがあり、多くの座員が退団した。その事実を踏まえてこの写真帖を見直してみると、様々な感慨を覚えずにはいられない。

文学座といえば杉村春子、としばしば言われてきた。確かに『女の一生』や『欲望という名の電車』などはドル箱的作品であった。しかし80年の歴史を演劇資料か



らたどってみると、文学座がつねに同時代の劇作家に新作を依頼し、また諸外国の作品をいち早く紹介してきたことがよくわかる。つかこうへいの『熱海殺人事件』は文学座アトリエが初演であり、サミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』は、アトリエ公開公演が日本初演である。アトリエと稽古場、さらに付属演劇研究所をかまえてきたことが、その攻めの姿勢を可能にしたのであろうし、日本の近代現代演劇がご専門の阿部由香子先生の言われるように「文学座が劇団というシステムを80年も続けることができた」秘密なのであろう。

多田久恵（S 45 院卒）



## 広場

## ◇著書紹介

文学学部1期生の<sup>そめむらあやこ</sup>染村絢子氏は、学生時代からラフカディオ・ハーンの研究を続けてこられ、昨年『ラフカディオ・ハーンと六人の日本人』という本を出版された。

前半は、教育者ハーンと茨木清次郎との交流が書かれている。茨木は、教え子の中で最初にイギリスへ留学した人物である。その2人の関係を詳しく調べるため、2005年染村氏は、単身イギリスにわたり1か月をかけて調査をした。また、茨木のご子息から貴重な資料を借り、2人の交流関係を書き上げた。

後半は、ハーンと角田柳作、田部隆次、甲斐美和、雨宮信成、長谷川武次郎との関係を記している。雨宮信成は、ハーン著「勝五郎再生記」の良き協力者であり、ま

た、長谷川武次郎は、ハーン作品で重要な縮緬本の創始者であった。縮緬本の中には「だんごをなくした お婆さん」のような興味深い話も載せられている。

資料整理と調査に約10年かけられた、400ページにわたる力作である。



## ◇高田さんの戯曲、公演決定！

高田<sup>つやこ</sup>句子さん（H27 院卒）主宰の劇団<sup>わぐみ</sup>句組による『律女立つ』の上演が決まりました。

◎2018年10月24日（水）～10月28日（日）

◎劇場 MOMO（中野）



女性の自立と社会的地位向上をめざす建学精神のもと、一昨年、創立130周年を迎えた共立女子学園。学び舎を築いたあと、仕事や家庭、地域など社会の様々なシーンで共立 Spirit を放っているOGを紹介していきます。

## file4 高田 句子

Tsuyako Takada

第4回目のゲストは、高田<sup>ツヤコ</sup>句子さん(H27院卒)です。学生時代にある演劇と衝撃的な出会いをして以来、高田さんにとって演劇は特別な存在となりました。2010年に自身の劇団を旗揚げ、66歳で共立の大学院に入学されるなど、芝居への情熱は冷めることを知りません。現在は劇団主宰、劇作家として精力的な活動を展開しています。

—まずは、高校時代～大学進学頃のお話を聞かせてください。

地元、長野県の高校卒業後は、上京して法律を学びたいと思っていました。ただ当時(昭和40年代前半)は、地方から女の子が東京に出て行くことは、まだ一般的ではなく、両親からは大反対されました。結局地元の家政学院へ通うことになったものの、あきらめきれず、卒業までの2年間、隠れて受験勉強に励み、卒業と同時に東京の大学へ進学を果たしました。

—そこまでの強い思いの源は、何だったのでしょうか。

弁護士を目指していたのですが、今考えると「男性に、親に負けるまい」という思いであがっていたのかもしれませんが。上京してからは勉強の傍ら、映画のはしごをし、シナリオを書いて過ごすという生活をおくりました。その頃、「アートシアター新宿文化」\*で蜷川幸雄、清水邦夫コンビの芝居を観て強烈な衝撃を受け、そこからアングラ演劇に傾倒しました。

—では、大学卒業後はどうされたのですか。

司法試験に挑みましたが、合格には至らず、建設会社に一般職として入社しました。とはいえ、芝居への熱は冷めず、夜は劇作家を目指して独学で戯曲を書き、コンクールに応募して賞もいただきました。受賞をきっかけに、劇作家の道一本でいこうと、会社を辞め、劇団青年座文芸演出部の門を叩きました。

—それはまた、思い切った方向転換ですね。

若さゆえといえますか(笑)…でも甘かったですね。劇団には8年間在籍していたのですが、その間、自分の戯曲は1本も舞台化されませんでした。

—その後は、ご結婚されて…

結婚を機に劇団は辞め、しばらくは子育ての合間に戯曲を書いていたのですが、不器用な私には両立は難しく、悩んだ末、決心しました。子育てに専念しようと。若い頃、母に向かって「お母さんみたいになりたくない!」と悪態をついていた私が専業主婦という選択…。私の戯曲の隠れテーマは、ジェンダーなのに現実…。そんなジレンマを抱きながらもやむなくの選択でした。いつか子育ての手が離れたとき、まだ芝居への情熱があつたら、その時は書こう!と言いついて聞かせて。

—書きたいという情熱は消えなかったんですね。

結婚して25年経った頃、下の子が大学生になり、劇場へ足を運ぶようになりました。かつて見逃していた『人魚伝説』という作品を観たその時、衝撃が走りました。「どうして私はこっち側(観客席)にいるのだろう、なぜあっち側(舞台)にいないのだろう」と。そう思った瞬間、抑えていたものが溢れ出て、居ても立ってもいられなくなりました。

—共立の大学院に入学されたのも、その頃ですか。

2010年に劇団を旗揚げし、専門的に演劇を学びたいと思い、66歳の時に入れていただきました。実は、藤木宏幸先生は、かつて私が受賞したコンクールの審査員のお一人でいらして、“長い冬眠生活”を送っている間も戯曲コンクールの資料を送ってくださり、励まし続けてくださいました。そういった意味でも共立にはご恩とご縁を感じております。

—今年秋に公演される『律女立つ』は、共立の卒業生である正岡律を主人公として書かれた作品だそうですが、執筆のきっかけを聞かせていただけますか。

共立の入学式で「まさか、女子大に入るなんて思ってもみなかった」という新入生の嘆きの声が聞こえてきたのです。その時、何としても律を書かなければ!と思いました。共立女子大には、正岡律という素晴らしい先輩がいることを彼女たちに伝えたかった。律は、声高に女性の自立を叫んだ人ではありませんが、したたかに生き、人生をあきらめない心の強さは、見習うべき価値あるものだと思うからです。OGの方はもちろん、多くの現役の学生さんに観ていただけるとうれしいです。

—本日は、ありがとうございました。

聞き手 高橋京子(H元年卒)

アートシアター新宿文化

1962年に誕生したアングラ文化発信地ともいえる映画館。映画上映後、前衛演劇を上演するという斬新なスタイルが話題を呼んだ。ここから寺山修司、清水邦夫、蜷川幸雄など新進気鋭の才能が輩出。惜しまれながらも80年代を前に幕を閉じる。



## 連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々⑭ —

今回は、英文コースを卒業された第18期生の坂本和子さんに書いていただきました。

昭和45年4月、共立に合格した私は宇都宮市内の自宅から学校まで往復6時間の遠距離通学を始めました。父の転勤で東京在住となるまでの3年間、早朝から食事の準備等で支えてくれた母に感謝!!

私の在校した栃木県立宇都宮女子高校は当時、短大も含めて共立への進学者が多数、私も先生方の勧めで受験という次第に。合格仲間は共立の阿佐谷寮や下宿先を決めました。私は親元からの通学を選びました。それぞれ学校は違いますがクラブの先輩(中央大)や同級生(家政大)

他数名の通学グループから誘われたので。ただし往路だけ、帰路は皆バラバラでした。

片道3時間のメインは宇都宮—上野の約2時間、車窓には日光連山、利根川が、片や八溝山脈、筑波山と春夏秋冬の景色を眺めながらの朝のオシャレリ、帰りは一人で読書(たまたまに教科書)そして睡眠。そんな日々の通学の車内では大きな荷物の行商のオバさんやモグリのアイスクリーム売り(無許可で車内販売をしていたオジさん)を見掛けたり、長く続く貨物列車とすれ違ったり、彼方に

東北新幹線の工事真っ最中の橋梁が見えたりと、あれこれ思い浮かびます。ちなみに、宇都宮と那須塩原に住む従弟達の娘と息子はその新幹線利用で東京の大学まで通学し卒業しました。私に倣って(?)とか。苦笑いですが、ついでに当時の国鉄はストライキがありまして、そんなストにぶつかった日の通学グループは集団自主休講をしてました。ゴメンナサイ。

そんな訳で、肝心の学業はと言いますと、ウーン、書けません、アシカラズ。

坂本和子 (S 49 卒)

## KALECOの授業『青い鳥』見学記

KALECOとはKyoritsu Active Learning Experience for Collaborative Communicationの略。



いつの時代でも真摯に立ち向かう若者の姿は美しい。先号で紹介したKALECOの授業「総合表現ワークショップ」の『青い鳥』を見学させていただいた。演出部、文芸部、舞台美術部など9部署あるなかで、制作部(5名)の山下恵莉香さん、折原愛美さん、大関繭さんに話を伺う。「制作は上演に至るまでのすべての環境を整えます。大学との連絡から始まり、全体の進行を把握し、遅い部署にはプッシュすることも必要です。何よりもコミュニケーション能力が求められていることを実感しました」とのこと。状況を正確に把握し対処すること、言葉に心をのせること、これが難しい。我々も修行中である。「コミュニケーション能力を高めること」はKALECOの目的の一つである。

共立講堂を使つての2度目の全日集中リハーサル

(8:00—20:00)を見学した。客席中央に演出担当グループ5人ほどが座り、時折ストップをかける。場面転換の際の音楽、照明、道具の出し入れなどのタイミングが合わないらしい。てきぱきと指示をだし、なかなか頼もしい。結論がでない時には、アドバイザーの先生から「とりあえず照明を変えることにして後でゆっくり検討しましょう」とのアドバイスがさりげなくはいる。アドバイザーの先生から口を切ることはない。あくまでも学生主体、これもKALECOの柱の一つである。

今年の履修者は100人余り、ほとんどが1年生。どの部署につくのかは希望をだして、重なる場合は抽選で決めるとのこと。特に希望が多かったのは映像で、Projection Mapping(舞台に映像を投影する手法)が魅力だったらしい。KALECO代表の村井華代先生は、「最後の1か月に学生は驚くほど成長するのです」と言っておられた。「がんばれ若者、がんばれ学生諸君」。大型台風21号が到来する中、学生の帰宅を心配しながら共立講堂を後にした。

[2017.10.22. 坂本和子、多田久恵(文責)]

## 掲示板

INFORMATION

役員会から

平成30年度の活動予定につきましては、役員会で検討を重ねてまいりました。詳しくは別紙をご覧ください。なお、共立祭は2018年10月20日(土)、21日(日)に開催される予定です。

## 編集後記

EDITOR'S NOTE

共立祭のバザーの収益金は54,000円でした。ご協力くださった皆様に御礼申し上げ、今後の活動に大切に使用させていただきます。半年に一度のお便りのような『通信』を、今回も会員お一人お一人のお手元に届けることができました。ご意見をお待ちしております。(K)